

医学、農学などの連携をベースとした健康長寿型の食産業の育成

- 世界に類をみない超高齢社会となった日本における「食」と「健康」との関係性について、医学、農学、情報科学等の知見を活かして総合的に分析し、健康長寿に資する日本食の摂取のあり方、日本食材を提示する。
- また、この成果を活用し、新しい食品加工技術の開発を行い、これから高齢化が始まるアジア諸国に先導した健康長寿型の食産業を育成する。

農林水産省

補助

健康長寿延伸のための食育イニシアチブ協議会

慶應義塾大学、京都府立医科大学、東京大学、タカラバイオ、太陽化学、キッコーマン、日清食品ホールディングス、タニタ、セコム医療システム、サントリーホールディングス、味の素、山形県鶴岡市、JA神奈川県厚生連伊勢原協同病院、ローソン、日本歯科大学、新日本有限責任監査法人で構成する産学官コンソーシアム

- 26年度から医福食農連携推進環境整備事業(3年間)を開始

【参考】アジア諸国の高齢化率

	2010年	2020年	2030年
日本	23.0%	28.6%	30.7%
韓国	11.1%	15.5%	23.4%
シンガポール	9.0%	13.9%	20.5%
タイ	8.9%	13.0%	19.5%

高齢化率とは総人口に占める65歳以上人口の割合であり、7%超で高齢化社会、14%で高齢社会、21%で超高齢社会となる。
(出所) UN World Population Prospects: The 2012 Revision

取組内容

1 健康長寿延伸のための医療情報・食習慣調査

- 百寿者を含む超高齢者(85歳以上)の医療情報・食習慣情報を収集・解析し、日本の食習慣と健康長寿の関連性を解明
- 特に、慶應義塾大学が保有する超高齢者、百寿者の食習慣情報や代謝解析情報を総合的にデータバンク化

2 食品等の有効成分と受容体の解明調査

- 国産の農水産物に含まれる機能性食品成分が持つ効果(※)を先端計測技術を用いて解明

※どのような成分が、生体内でどのようにして受容されて作用を発揮するか

取組成果

- 超高齢社会における食産業の商品開発のための基礎となる科学的知見を産官学が連携して蓄積

成果の活用

- 平成27年度以降、得られた科学的知見を生かした新しい食品加工技術の開発を産学官連携して行い、今後高齢化の進むアジア諸国に先導して健康長寿型の食産業を育成

「健康長寿延伸のための食育イニシアチブ協議会」

「外食化」「委託化」が進む「食」の質的向上、「食育処方」の普及、総医療費の抑制戦略
百寿総合研究センターを中核とした世界最大級超高齢者コホート調査と世界への情報発信

事務局

慶應義塾大学
新日本有限責任監査法人

食育イニシアチブ協議会

生命医学情報コア

慶應義塾大学医学部
・環境情報学部
京都府立医科大学
タカラバイオ株式会社
日本歯科大学

慶應義塾大学医学部・病院
(百寿総合研究センター)
百寿バイオバンク設置

農学研究コア

東京大学農学研究科
京都府立医科大学
太陽化学株式会社
キッコーマン株式会社

機能性食品成分のメカニズム解明

超高齢者コホート研究による健康
長寿の標準指標化と情報発信

世界に冠たる国産農作物や
発酵技術・食の知財確保

地域との連携

JA神奈川県厚生連
伊勢原共同病院
山形県鶴岡市
セコム医療システム株式会社

食育産業コア

株式会社タニタ
サントリーホールディングス株式会社
味の素株式会社
日清食品ホールディングス株式会社
ローソン株式会社